

2019年第2回日本地球化学会理事会議事録

日時：2019年9月16日（月）13:00-16:00

場所：東京大学本郷地区キャンパス 理1号館 336号室

出席者：益田 晴恵、坂本 尚義、板井 啓明、伊藤 正一、上野雄一郎、太田 充恒、
小畑 元、蒲生 俊敬（監事）、川口 慎介、小木曾 哲、下田 玄、高橋 嘉
夫、橘 省吾、角皆 潤、中川 書子、服部 祥平、福士 圭介、丸岡 照幸、
南 雅代、三村 耕一、横山 哲也

欠席者：癸生川 陽子、高野 淑識、原田尚美

オブザーバ：浅原 良浩、鍵 裕之（GJ編集長）、角野 浩史、土岐 知弘、

1. 審議事項

1.1. 2019年度第一回理事会議事録案の確認（資料1）

前回議事録が回覧され、とくに異論がなく承認された。

1.2. 総会式次第について（資料2）

板井庶務幹事より説明があり、軽微な修正を経て内容が承認された。

1.3. 7月分鳥居・井上基金の採択について（資料3）

板井庶務幹事より、7/31募集終了分の鳥居・井上基金について、一件の申請があり、委員会所見に基づき採択を提案するとの説明があり、承認された。益田会長より、申請内容の会合における日本地球化学会員の割合に関して申し合わせの作成を検討しては、という意見が出された。

1.4. 年会時の学生賞について

南幹事より、年会時の学生賞について、(i) 現状の贈呈数（候補者数の約10%）は少ないため約20%を対象とすること、(ii) 4年生や修士を対象とした枠を設定すること、(iii) 各々の名称を「学生優秀賞」、「学生奨励賞」とすることが提案された。本案に対し、(i) については概ね賛成の意見が多く、対象者数については20%前後を目安とする案が示された。(ii) については、良い発表であれば学年を問わず評価すべきとの意見が出され、同意を得た*。(iii) については、「学生発表優秀賞」と「学生発表奨励賞」とする案が提案された。

※ 本決定に関しては、企画幹事から候補者に対して「修士を対象とした賞があるため学年を知らせてほしい」との通知が既に出されていたことから、2019年の年会では学生発表奨励賞の対象は修士課程以下として審査された。

1.5. 次期 GJ 編集長の引き継ぎについて

鍵 GJ 編集長より、1月から交代予定の次期編集長指名について、任意団体時の慣例では、会長、副会長、現 GJ 編集委員長の4名と、会長が指名した若干名を加えた委員会による協議を経て、交代の6か月までに決定していたことが説明された。今回は、法人化後最初の交代であり、規程化されたルールはないが、益田会長・塚本副会長・原田副会長・鍵 GJ 編集長の四名の合議により、鈴木勝彦会員を次期編集長として推薦する意向が示され、承認された。

1.6. 年会 LOC メンバーの理事会参画について（資料4）

年会を地方開催する際の LOC の負担を鑑み、LOC から一名を会長指名で理事会に加えることの可能性について、資料4を基に議論がなされた。法人化後のルールでは、理事の任命は総会承認事項であることから、任期一年の幹事を新設し、理事会に参加いただくのが良いとの意見が出された。これを受けて、年会幹事の新設が承認された。

1.7. 規定の改定について（資料5）

南会計幹事より、任意団体時のルールに即した会計規定を正式に規定化する案が資料5として提示され、承認された。

1.8. 来期引き継ぎ事項の確認

引継ぎ理事会

引継ぎの内容を明確化することが求められ、修正案を提出した。

1.9. その他

2. 報告事項等

- 2.1. 庶務（資料 6）
- 2.2. GJ (資料 7)
- 2.3. 和文誌「地球化学」（資料 8）
- 2.4. その他

以上の議事を終え、16 時 05 分に閉会した。